第２回　地域づくりビジョン審議会　議事録（発言内容まとめ）

・日時：令和４年１１月２８日（月）
　　１９時００分～２１時００分
・場所：問寒別生涯学習センター

［出席者(敬称略)］

審議会委員
　阿部　純一／阿部　由裕／遠藤　雅樹／大内　寿晃／坂本　太一／笹井　英子／
　高木　健太郎／丹羽　達雄／糠　由季／橋元　誠／森崎　英典／芳野　福一
オブザーバーその他
　幌延町議会議員　斎賀　弘孝
　(株)まちづくり計画設計　松村　博文
　合同会社メモトック　安東　勇人
　(地独)北海道立総合研究機構　牛島　健
　(地独)北海道立総合研究機構　小野塚　仁海
　(地独)北海道立総合研究機構　石井　旭　(リモート参加)
　エスエーデザインオフィス一級建築士事務所　小倉　寛征
　エスエーデザインオフィス一級建築士事務所　加持　亮輔
　事務局(幌延町役場)

［傍聴人数］　２名

１．前回審議会以降の活動紹介　（地域対策室　喜多）
２．地域づくりビジョン素案のご説明　（㈱まちづくり計画設計　松村氏）
３．意見交換　（進行：㈱まちづくり計画設計　松村氏）

１．前回審議会以降の活動紹介

・各本音トークの紹介
　- といかんみんなの市、共同果樹園の紹介
・子どもワークショップの紹介
・町職員プロジェクトチームの紹介

２．地域づくりビジョン素案のご説明

- 今の時代
  - 価値観の変容の中で、問寒別は人のつながりなど唯一の価値
  - 働き方改革
- 現状（ネガティブ要素）
  - 住民活動停滞
  - インフラの維持管理コスト増加
  - 世代構成の偏り
  - 酪農の担い手
  - 住む場所がない
  - Ｑマートはほんとに維持できる？
- 現状（ポジティブ要素）
  - 転入のポテンシャルがある
  - 新しい働き方（ウタラやメモトック）
  - 団結力や包容力
  - 自治文化
  - 外の目を持った住民が多い
  - 住み続けたい意向が高い
- 課題
  - 地域住民が地域に住み続けられるか
  - 移住定住の促進のための住宅供給が間に合ってるか
  - 酪農やほかの地域産業は持続的な産業であるか
  - 新たな地域運営の方法の模索
  - 高齢者など、地域住民の活動の場はあるか
  - 生活利便性は将来免許を返納したのち確保できるのか
- 将来像
  - みんなが集まりやりがいのある暮らしができる問寒別
  - 年をとってもみんなで住み続けられる問寒別
  - 地域の資源を大切にし活用するでも安売りしない問寒別
- 基本計画
  - ごちゃまぜプロジェクト
  - 多様な住まいと住み続けプロジェクト
  - 子どもは地域で育むプロジェクト
  - 自分ごと地域運営プロジェクト
  - ずっと続く産業プロジェクト
  - 生活複合拠点プロジェクト

    - 当たり前に新たな価値を吹き込むプロジェクト
- 推進方法
    - 地域運営組織が中心となり、様々な地域団体の連携のハブになる
    - 自由な議論の場を維持していく
    - 役場仕事のアウトソーシング
    - 社会実験の実証
    - 町内会機能の棚卸し

３．ビジョンに関する自由な意見

（委員Ａ）
・といかん市を開催したとき、サークル内での考え方が変わった。出店は楽しかったのだと思う。次はいつやるの？といった前向きな考えのメンバーが増えた。問寒別の中で普段話さない人と話したり、実際に販売する経験をできたりできた。サークルメンバーも、今回のようにパッと開催できるようにしたいと考えている。
・疑問：ビジョン中「現状」で役場機能は縮小していくと紹介されているが、将来的に役場は何をするの？
–これからビジョンの中で役場の役割・位置づけを考えていきたい。

（委員Ｂ）
・郵便局は地域あらゆる方から利用していただいている。問寒別はほかの地域以上に利用率が高い。地域に郵便局は残していきたい。
・住宅について、名寄の道営４階建て住宅が参考になるのでは。１階が高齢者６世帯。上の階が若い世代各階５世帯の共同。これが４棟ある。若い世代が高齢者を見守る仕組み。
・疑問：稚内に買い物行くが、今後のバイパスは問寒別まで伸びてきたりするの？枝幸にバイパスができたときに、商店がバタバタといってしまった。それを危惧。
–（委員Ｃ）稚内～幌延（天塩大橋）、中川～音威子府でいったん工事が終わる。
–（角山）高規格道路：稚内～天塩大橋、音威子府～中川。その間の区間は整備の要望を出しているが通るかどうかはわからない。

（委員Ｃ）
・考え方はうまくまとまっている。ポイントは掴んでいると思う。どう実行に移すかが難しい。

（委員Ｄ）

・委員Ｃの言うとおり。雪下ろしや草刈りなど、寄せ集めになった場合の事故の対応や資格の有無が心配。仲良しクラブのように思えるが。
–仕事でやるからには責任を持つことになる。

（委員Ｅ）
・ビジョンと現実とのギャップを感じる。
・町の中でさまざまな活動（ミニバレー、ソフトボール、盆踊り、町内会等）が、やめようという流れにある中で、楽しめる場をなくさないようにということで頑張ろうとしている。やめるのは簡単で、浅く広く、どの活動も簡単にして何とか維持できるようにしているのに、新たな仕組みを作るとなると、またいつものメンバーの仕事をまた増やしてしまう気がする。楽にしていかないと役員が抜けていくだけ。
・楽しかった問寒別を次世代につないでいきたいと思いを持って今の活動を維持している。
–今の構図は、限られた人への負担が集中しているだけ。たくさんの人が少しずつ汗をかく発想。色々なグループがそれぞれにやっていることを一緒にやるとか。

（委員Ｆ）
・問寒別として避けられない話として、人数が減っていくというのはある。そういう中で、地域運営組織の件も現実的には移住者に向いてくるのではないかと思う。お祭りも楽しいからやる、お金のためではないなら、急に来た人に運営はできない。誰も幸せじゃない。それこそ内部崩壊につながる。
・（代々引き継いできた集まりやイベントを守っていきたいという地域の方の想いは）１０年とか住んでみて初めて何となく理解できるものでは。入ってきて１年目の人が、１０年目のような気持ちで活動を担うのは難しい話。

（委員Ｇ）
・（集落の良いところについて）問寒別に移住してちょうど４年になる。受け入れてくれる態勢、受け入れてくれる実感ある。移住の失敗例もよく聞く中で、ここではそういう話も聞かない。寛大な人が多いことが理由？

（委員Ｈ）
・地域づくりということで、産業が重要な位置を占める。基幹産業である農業や建設業が元気になる方策が一番重要だと思う。
・地域運営組織の正職員は若干名とのことだが、１名も難しいのではないか。若干名雇用できるようなアイデアがあるのか？

–今までの考え方では難しいが、最近、振興局職員の副業を認めた例などあり。今までのやり方では変わらない。一つずつ変えていく。現在役場がやっている業務を委託してもらって安定収入にするという稼ぎ方。既に成立している地域もある。

（委員Ｉ）
・開拓者が求めた人は新天地を求めて夢を見てきた。収入を得るために人が集まってきた。明治３８年。徐々に学校できて、いろんなものができた。いろんな歴史があった。今は減る一方。世の中の流れの中でモノの豊かさを求めて日本は大きくなってきたが、ここ数年は心の豊かさを求めるようになってきたのではないか。その中で問寒別をどうするのか、都会にはない自然、生き方、生活のしかた、材料は豊富なので、人集めの材料にすぐにはならないが、当たり前のものを再発見して、発信して、人が集まってくれるような地域になってほしい。移住、新規就農、人が集まることが大事、そのネタを探して、育んで、発信していくこと。他人事ではなくて、住民が切に考えて掘り下げてビジョンを煮詰めたい。口では簡単で実行は難しいが担っていくしかない
–たくさんの人の賛同ではなく、コアな人に好きになってもらう作戦もある。

（委員Ｊ）
・第１回でビジョンに子どもも関われることを要望して、子どもワークショップが実現した。
・子どもたちは地域が好き。自然豊かなこの地域で安心して遊べる環境にあるのは、地域の見守りあってのこと。
・来年３月で地域を離れるが、町内会長や審議会のメンバーとして活動できたことは良かったと感じる。
・地域とのつながりが無ければ学校の運営はできない。子どもがいなくなれば学校も無くなり、地域も衰退する。少しでも人が住んでもらえること。人数は少ないけど人の繋がりが強い地域だ。

（委員Ｋ）
・老人クラブの悩みは、会員が減っていること。対象でも入ってくれない。会を維持していくことが困難かもしれない。対象者は全員入ってほしい、それなら維持できるのではないか。
・公園管理を町から請けているが、事故のことを考えると安易に仕事を請けるのが良いことなのか疑問に感じた。

・小１から問寒別で暮らしてきた。当時小中学校で３８０人いた。いい問寒別を知っている。最近は、問寒別がばらばらになっているように感じている。移住者との接点があまり無い。誰とでも交流できる場が欲しいと思う。

（委員Ｌ）
・全体スキームで色々挙げているが、やるとしたら大変なこと。縮小して何とか継続していこうと考えている中で、取組事項をやっていくのは大変なこと。
・連合町内会もやっと道が開けつつある。１１月３０日に臨時総会。来年以降継続できそうな状況。
–連合町内会長を廃止するという改革は画期的。

（道総研石井氏）
・まちづくり、これまでの概念を解きほぐして変えていく大変な作業をやっている、壮大な社会実験。といかん市もリーダーレスで実施してみて、いろんな団体がごちゃまぜでやってみた、協力の仕方、まちづくりの参加の仕方の実証実験。
・共同果樹園も実験場、いろんな産業が関わる新たな仕組みの場。
–農業、建設業のスキルがあるので、いろんなことができてしまうのは産業の強み。

（斎賀議員）
・ビジョンで気になったのは、住宅不足で定住できないことは、現場に通ってる人は住宅事情ではなくて家庭の都合による場合もあるので、そういう人の声も拾ってほしい。参加できない人にも周知して意見を聞く仕組みが必要ではないか、確実に進捗を住民に伝えてほしい。
・何も地域でばらばらに行事などをやっているわけではない。地域で必要なこと、町内会で必要なことをやっている。人が少なくなったけど、なんとか継続できるように一生懸命やっている、どれも大切で必要なこと。
・高規格道路：確かな情報は役場にあるので、こういう場で知らせてほしい。
–（角山）国の事業なので町はすべてを知らないが、得ている情報の範囲で。新天塩大橋が終わるとこの区間は終了で来年度完了予定。中川の工事はあと３年くらいかかるが、それで完了。その後の４０号は具体化しておらず、整備区間として要望中で、調査段階に入れるかどうかというところ。未整備区間が３区間くらいあって、国や関係各所へ要望しているところ。
・地域運営組織：収入が３００～５００万円になるようにどうなっていくのか。
・説明文書にカタカナが多過ぎる、理解できない高齢者が多いのでは。
–カタカナの置き換えなど検討する。

（地域対策室喜多）
・質疑応答→特になし
・次回審議会については２月を予定している。

（閉会）